

臼杵市 事務事業評価シート
(平成 28 年度)

番号	課名	グループ名
H - 1	消防本部総務課	消防団グループ

事務事業名	消防団消防機械庫詰所新築事業						新規・継続	継続		
						ソフト・ハード	ハード			
総合計画との関連	主要施策名 (施策コード)	Ⅲ-8-15	防災・減災のための整備							
	関連施策名 (施策コード)	Ⅲ-7-13	自主的な防災活動及び防災教育の推進							
		Ⅲ-7-14	防災に関する組織の育成・強化							
基本項目	事業内容 (経緯)	消防団の消防機械庫詰所63棟のうち、老朽化が進んでいる機械庫詰所を新築し、効率的な出動体制の確立を図ります。								
	行動指標	指標名	説明・算式・引用	単位	実績の推移			H28 実績値	H31 計画値	
					H25	H26	H27			
		①	消防機械庫詰所の新築数	単年度整備数	棟	1	1	1	1	5
		②								
③										
④										
事業対象	消防団及び市民		成果	新しく機械庫詰所を整備したことにより、効率的な消防団活動が図られました。						
成果指標	指標名	説明・算式・引用	単位	実績の推移			H28 実績値	H31 計画値		
				H25	H26	H27				
	新築した機械庫の受益者数	分団・部の管轄内人口	人	618	334	1,062	659	424		

コスト 事業費+人件費	フルコスト(千円)	内訳	国庫補助金(千円)	県補助金(千円)	市債(千円)	使用料・手数料・その他(千円)	一般財源(千円)
	21,540			4,975	15,100		1,465

評価の視点	評価		判断基準		理由
	必要性	目的が市民ニーズに照らして妥当か			各地域を災害から直接守るのは消防団員であり、その拠点施設として更新整備は必要不可欠です。
		A	A: 適応している B: 一部適応していない C: 適応していない		
	有効性	目的や目標に照らして予想される効果が得られるか			新築された機械庫詰所を拠点として、災害対応は勿論のこと、会議や研修等に利用することで有効的な活用ができます。
A		A: 期待したとおりの効果がある B: 期待したほどの効果が見られない C: 効果が少ない			
効率性	行政資源量(特にコスト)に対し合った効果があるか			消防機械庫詰所を新築することにより、団員の士気が高まり効率的な消防団活動を行うことができます。	
	A	A: 効率的に効果が出ている B: 改善の余地がややある C: 効率的に効果が出ていない			
事業の問題・課題	今後建替えを行う分団・部については、極力高台の用地確保を推進するのが望ましいと思われます。また、部の統廃合等を視野に入れ、無駄な建替えにならないよう計画性を持った協議が必要です。				
前年度の改善案	既存の機械庫周辺は海拔10mでもあり、用地確保及び団員参集条件等を勘案して、地元自治会並びに分団と協議した結果、既存の機械庫付近への移転となりました。今後計画されている事業についても、まずは消防団員の安全を確保することを最優先に考え推進していきます。				
具体的な改善案	部の統廃合について、地元自治会や消防団と協議を行い、機械庫詰所の建替え等について計画性をもって実施していきます。				

課長評価	現状のまま継続する(継続)	理由	老朽化が進んでいる機械庫を新築することで、出動体制の効率化及び団員の意識高揚を図るために必要です。
------	---------------	----	---

番号	課名	グループ名
H - 2	消防本部総務課	消防団グループ

事務事業名		消防団充実強化事業（装備品）						新規・継続	継続	
								ソフト・ハード	ハード	
総合計画との関連	主要施策名 (施策コード)	Ⅲ-8-15	防災・減災のための整備							
	関連施策名 (施策コード)	Ⅲ-7-13	自主的な防災活動及び防災教育の推進							
		Ⅲ-7-14	防災に関する組織の育成・強化							
基本項目	事業内容 (経緯)	災害発生時に、消防団が中核的存在として活動するためには、まずは、団員自身の安全を確保することが重要であることから、安全装備品等の充実を図ることが必要です。								
	行動指標	指標名	説明・算式・引用	単位	実績の推移			H28 実績値	H31 計画値	
					H25	H26	H27			
		①	救命胸衣配備状況（800着）	計画個数に対する配備率	%		36	73	100	-
		②	避難誘導用拡声器配備状況（機械庫等各4個）	計画個数に対する配備率	%	7	39	66	100	-
③	保安帽更新状況（野津消防団300個）	計画個数に対する配備率	%		29	58	86	-		
④										
事業対象	消防団	成果	災害時に、地域防災の要である消防団の装備品を充実することで、団員の安全確保が図られました。							
成果指標	指標名	説明・算式・引用	単位	実績の推移			H28 実績値	H31 計画値		
				H25	H26	H27				
	消防団員充足率	定数に対する4月1日現在の充足率	%	98	98	97	98	100		

コスト 事業費+人件費	フルコスト（千円）	内訳	国庫補助金（千円）	県補助金（千円）	市債（千円）	使用料・手数料・その他（千円）	一般財源（千円）
	2,142				1,500		642

評価の視点	評価	判断基準		理由
	必要性	目的が市民ニーズに照らして妥当か	A：適応している B：一部適応していない C：適応していない	東日本大震災を契機に「消防団を中核とした地域防災力の充実強化に関する法律」が施行され、災害発生時には消防団員の果す役割は大きく、まずは消防団員を災害から守るため「消防団の装備基準」が見直され、これに準じて順次整備する必要があります。
	有効性	目的や目標に照らして予想される効果が得られるか	A：期待したとおりの効果がある B：期待したほどの効果が見られない C：効果が少ない	装備品については平成26年度から計画的に配備し、火災時は勿論、近年多発している自然災害についても消防団員が安心して活動するために活用され、多くの命を救う取組みに効果が期待できます。
効率性	行政資源量（特にコスト）に対し合った効果があるか	A：効率的に効果が出ている B：改善の余地がややある C：効率的に効果が出ていない	入札による契約方法とすることで、当初積算額より低価格で契約ができ、コスト削減に繋がりました。	
事業の問題・課題	災害時に、団員の命を守ることがその後の活動において、多くの住民の命を救うことになることを念頭におき、「自分の命、家族の命を守る」ことを最優先することを周知させ、計画的に安全装備品を配備する必要があります。			
前年度の改善案	消防団員等公務災害補償等共済基金の「消防団員安全装備品整備等助成事業」を活用し、904千円の助成金を充当することで、一般財源の抑制を図りました。			
具体的な改善案	災害時、消防団員の安全装備品の活用の徹底を図っています。			

課長評価	見直し（縮小、休止、廃止）を検討する（見直し）	理由	消防団を中核とした取り組みの中で安全装備品については充実を図れたので、今後は縮小して必要な装備品について更新していきたい。
------	-------------------------	----	---

番号	課名	グループ名
H - 3	消防本部総務課	消防団グループ

事務事業名	消防団充実強化事業（研修・訓練）						新規・継続	継続		
						ソフト・ハード	ソフト			
総合計画との関連	主要施策名 (施策コード)	Ⅲ-8-15	防災・減災のための整備							
	関連施策名 (施策コード)	Ⅲ-7-13	自主的な防災活動及び防災教育の推進							
		Ⅲ-7-14	防災に関する組織の育成・強化							
基本項目	事業内容 (経緯)	災害発生時に備え、地域防災の中核的存在として地域防災力の充実を図るためには、団員自身があらゆる知識、意識、技術の習得を今以上に向上させることが重要です。								
	行動指標	指標名	説明・算式・引用	単位	実績の推移			H28 実績値	H31 計画値	
					H25	H26	H27			
		①	大分県消防学校等入校率	入校等者数／消防団実員数	%	3	2	3	2	4
		②	出初式参加率	出勤人員／消防団実員数	%	75	72	76	71	79
③	研修・訓練実施回数	実施回数	回	22	9	29	12	14		
④	振興協議会等防災イベント	実施回数	回		2	6	2	15		
事業対象	消防団員	成果	災害に備え、消防団を中核とし、地域防災の充実強化を図る必要があるため、訓練等により実働できる消防団員の育成が図られました。							
成果指標	指標名	説明・算式・引用	単位	実績の推移			H28 実績値	H31 計画値		
				H25	H26	H27				
	消防団員充足率	定数に対する4月1日現在の充足率（実数／定数）	%	98	98	97	98	99		

コスト 事業費+人件費	フルコスト（千円）	内訳	国庫補助金（千円）	県補助金（千円）	市債（千円）	使用料・手数料・その他（千円）	一般財源（千円）
	948						948

評価の視点	必要性	目的が市民ニーズに照らして妥当か A：適応している B：一部適応していない C：適応していない	各種訓練・研修を重ね、知識、技術の習得を図るとともに、地域住民との協働による防災学習の普及を推進する必要があります。
	有効性	目的や目標に照らして予想される効果が得られるか A：期待したとおりの効果がある B：期待したほどの効果が見られない C：効果が少ない	各種訓練を実施することにより、効率的な消防団活動を実施することができます。
	効率性	行政資源量（特にコスト）に対し合った効果があるか A：効率的に効果が出ている B：改善の余地がややある C：効率的に効果が出ていない	消防団員があらゆる防災知識を習得し、地域住民への啓発を図ることで、安心安全なまちづくりの推進の一翼を担うことができます。
事業の問題・課題	被雇用者団員、いわゆるサラリーマン団員が約7割に達し、昼間の災害の出勤人員確保が懸念されます。そのために、現在の団員が出勤しやすい環境づくりが必要です。また、高齢化の進展により過疎化が進む分団において、団員確保に苦慮していますので、消防団に入団したくなるような魅力ある制度への取り組みが必要です。		
前年度の改善案	総務省消防庁の推進する「協力事業所制度」を導入し、消防団員が在職する事業所への付加価値の向上を図る必要があります。また、団員本人やその家族にもメリットのある事業を模索する必要があります。		
具体的な改善案	災害時に実働可能な団員を少しでも確保するため、総務省消防庁の推進する「協力事業所制度」や「消防団応援店」などの制度を普及、啓発する必要があります。		

課長評価	現状のまま継続する（継続）	理由	消防団を中核とした取り組みの中で、団員自身が研修や訓練を行うことで知識や技術を習得し、自身の命を守ることは勿論のこと、地域住民の安心安全なまちづくりの推進の一翼を担うことができます。
------	---------------	----	---

番号	課名	グループ名
H - 4	消防本部総務課	消防団グループ

事務事業名	小型動力ポンプ及び消防団車両（積載車・ポンプ車）購入事業						新規・継続	継続		
						ソフト・ハード	ハード			
総合計画との関連	主要施策名 (施策コード)	Ⅲ-8-15	防災・減災のための整備							
	関連施策名 (施策コード)	Ⅲ-7-13	自主的な防災活動及び防災教育の推進							
		Ⅲ-7-14	防災に関する組織の育成・強化							
事業内容 (経緯)	消防団に配備している小型動力ポンプと未配備の積載車について、火災をはじめ各種災害発生時の機動力向上のため、整備、更新を行う必要があります。									
基本項目	行動指標	指標名	説明・算式・引用	単位	実績の推移			H28 実績値	H31 計画値	
					H25	H26	H27			
		①	消防ポンプ積載車配備状況 (ポンプ車含む)	全機械庫に対する配備率	%	60	67	73	73	73
		②	小型動力ポンプ老朽化所持率	全57台に対する比率 (15年以上経過ポンプ)	%	21	16	19	30	16
		③								
	④									
事業対象	消防団及び市民		成果	積載車並びに小型動力ポンプを常時稼働できる体制を構築することにより、火災はもとより各種災害を最小限度にとどめることができました。						
成果指標	指標名	説明・算式・引用	単位	実績の推移			H28 実績値	H31 計画値		
				H25	H26	H27				
	配備分団管轄人口	管轄内人口	人	669	2,126	4,297	2,424	1,684		

コスト 事業費+人件費	フルコスト(千円)	内訳	国庫補助金(千円)	県補助金(千円)	市債(千円)	使用料・手数料・その他(千円)	一般財源(千円)
	7,980				7,600		380

評価の視点	評価	判断基準		理由
	必要性	目的が市民ニーズに照らして妥当か		経過年数により多くの小型動力ポンプ及び積載車が老朽化、又は未配備の分団からの(導入・更新)要望もあり、機動力の強化には必要不可欠です。
		A	A: 適応している B: 一部適応していない C: 適応していない	
	有効性	目的や目標に照らして予想される効果が得られるか		機動力の強化により、火災早期鎮圧、被害の軽減に繋がります。
A		A: 期待したとおりの効果がある B: 期待したほどの効果が見られない C: 効果が少ない		
効率性	行政資源量(特にコスト)に対し合った効果があるか		積載車及び小型動力ポンプの整備にあたり、入札によってコストを抑えることができました。	
	A	A: 効率的に効果が出ている B: 改善の余地がややある C: 効率的に効果が出ていない		
事業の問題・課題	公共5カ年計画に基づき、毎年計画的に更新を行いますが、平成29年度以降は分団・部の統廃合を見据え整備を行う必要があります。			
前年度の改善案	日本消防協会助成事業を活用し、今年度、団本部車両及び防災学習資機材の寄贈を受けました。			
具体的な改善案	部の統廃合について、地元自治会や消防団と協議を行い、小型動力ポンプ及び消防団車両について計画性をもって整備していきます。			

課長評価	現状のまま継続する(継続)	理由	火災をはじめとした各種災害に対して小型動力ポンプ及び消防団車両の整備、更新は計画的に行う必要があります。
------	---------------	----	--

番号	課名	グループ名
H - 5	警防課	通信グループ

事務事業名		高機能消防指令センター整備事業						新規・継続	継続	
		ソフト・ハード		ハード						
総合計画との関連	主要施策名(施策コード)	VII-21-51 救急体制・消防力の充実								
	関連施策名(施策コード)									
基本項目	事業内容(経緯)	指令台の経年劣化に伴い、不具合が頻繁に発生しているため、早期に更新・整備を行う必要があります。								
	行動指標	指標名	説明・算式・引用	単位	実績の推移			H28実績値	H31計画値	
					H25	H26	H27			
		①	高機能消防指令センター基本設計	基本設計進捗率	%		100			
		②	高機能消防指令センター実施設計	実施設計進捗率	%			100		
	③	高機能消防指令センター整備	整備進捗率	%				100		
④										
事業対象	市民	成果	平成29年3月に整備工事が完了し、デジタルネットワークに対応した消防通信機能が向上しました。							
成果指標	指標名	説明・算式・引用	単位	実績の推移			H28実績値	H31計画値		
				H25	H26	H27				
	整備事業進捗率	事業全体の進捗率	%		10	20	100			

コスト 事業費+人件費	フルコスト(千円)	内訳	国庫補助金(千円)	県補助金(千円)	市債(千円)	使用料・手数料・その他(千円)	一般財源(千円)
	266,230				262,100		4,130

評価の視点	評価	判断基準		理由
	必要性	目的が市民ニーズに照らして妥当か		消防の目的を達成させるためには、119番受付・指令業務等をおこなう高機能消防指令センターの整備は必要不可欠です。
		A	A: 適応している B: 一部適応していない C: 適応していない	
	有効性	目的や目標に照らして予想される効果が得られるか		高機能消防指令センターを整備することで、最新の機器を導入し、災害活動を万全な体制で支援することができます。
A		A: 期待したとおりの効果がある B: 期待したほどの効果が見られない C: 効果が少ない		
効率性	行政資源量(特にコスト)に対し合った効果があるか		高機能消防指令センターを整備することにより、これまでの不具合が解消され、円滑な119番受付・指令業務がおこなえ、市民の安心・安全の確保を図ることができます。	
	A	A: 効率的に効果が出ている B: 改善の余地がややある C: 効率的に効果が出ていない		
事業の問題・課題	現在使用中の指令台は、経年劣化により頻繁に不具合が発生しているため、早期に整備する必要があります。			
前年度の改善案	実施設計に基づいた工事工程計画で整備を進める必要があります。平成28年度の1カ年整備のため、期間が短期であり、詳細な打合せ等をおこなう必要があります。			
具体的な改善案	実施設計に基づいたコストを抑えられた最も有効な高機能消防指令センターの整備を、平成29年3月末までに終了し、平成29年4月運用をおこないます。			

課長評価	事業目的達成による完了・完了予定(完了)	理由	平成28年度整備工事を完了予定で、平成29年2月より運用を開始しています。
------	----------------------	----	---------------------------------------

臼杵市 事務事業評価シート
(平成 28 年度)

番号	課名	グループ名
H - 6	警防課	施設・救助グループ

事務事業名	防火水槽整備事業						新規・継続 ソフト・ハード	継続 ハード		
総合計画との関連	主要施策名 (施策コード)	Ⅶ-21-51	救急体制・消防力の充実							
	関連施策名 (施策コード)	Ⅶ-21-51	救急体制・消防力の充実							
基本項目	事業内容 (経緯)	火災消火を行うに際して防火水槽は重要な施設となります。既存の防火水槽の保守整備を行いながら、特定の地域に編重することなく計画的に新設整備を行います。								
	行動指標	指標名	説明・算式・引用	単位	実績の推移			H28 実績値	H31 計画値	
					H25	H26	H27			
		①	耐震性貯水槽新設工事	新設設置数	箇所	2	2		2	2
		②	防火水槽有蓋工事	無蓋水槽の有蓋化工事	箇所	3	3	3	3	3
③	防火水槽漏水補修工事	漏水補修工事	箇所	6	2	7	2	5		
④										
事業対象	消防職員	成果	防火水槽を整備することで、火災発生時の迅速な初期消火の態勢を図ることができました。							
成果指標	指標名	説明・算式・引用	単位	実績の推移			H28 実績値	H31 計画値		
				H25	H26	H27				
	新設・補修整備数	新規設置水槽数+補修整備水槽数	箇所	11	7	10	7	10		

コスト 事業費+人件費	フルコスト(千円)	内訳	国庫補助金(千円)	県補助金(千円)	市債(千円)	使用料・手数料・その他(千円)	一般財源(千円)
	22,611		5,386		15,728		1,497

評価の視点	評価	判断基準		理由
	必要性	目的が市民ニーズに照らして妥当か		地区からの要望も多く、安全・安心な暮らしに直結するため必要性は高いです。
		A	A: 適応している B: 一部適応していない C: 適応していない	
	有効性	目的や目標に照らして予想される効果が得られるか		火災が発生した場合の初期消火の迅速性、延焼拡大を防ぐためにも非常に有効です。
A		A: 期待したとおりの効果がある B: 期待したほどの効果が見られない C: 効果が少ない		
効率性	行政資源量(特にコスト)に対し合った効果があるか		単年度で完成し効率よく執行されています。	
	A	A: 効率的に効果が出ている B: 改善の余地がややある C: 効率的に効果が出ていない		
事業の問題・課題	老朽化している防火水槽が多く、整備には多額の費用が必要なため計画的な整備が必要です。			
前年度の改善案	緊急性の高い箇所から事業を実施しています。			
具体的な改善案	水利調査はメジャーを活用し測定、記録を実施し、緊急性の高い箇所から事業を実施しています。			

課長評価	現状のまま継続する(継続)	理由	防火水槽は計画的に整備する必要があります。新設は消火栓の設置等、水道課と協議し検討します。防火水槽有蓋工事は老朽化した水槽が多いため新設、又は有蓋化を検討します。
------	---------------	----	---

番号	課名	グループ名
H - 7	消防本部野津分署	警防グループ

事務事業名		野津地域消防水利充実強化事業						新規・継続	継続	
		ソフト・ハード		ハード						
総合計画との関連	主要施策名(施策コード)	Ⅲ-8-15	防災・減災のための整備							
	関連施策名(施策コード)	VII-21-51	救急体制・消防力の充実							
基本項目	事業内容(経緯)	野津地域の無蓋防火水槽の有蓋化工事及びフェンスの点検を行い消防水利の保安と維持管理強化を行います。								
	行動指標	指標名	説明・算式・引用	単位	実績の推移			H28実績値	H31計画値	
					H25	H26	H27			
		①	防火水槽整備件数	有蓋化工事	箇所	2	3	3	3	3
		②								
③										
④										
事業対象	消防職員 地域住民	成果	平成28年度に防火水槽3箇所の有蓋化工事が完了し、防火水槽の保安と維持管理強化に繋がりました。							
成果指標	指標名	説明・算式・引用	単位	実績の推移			H28実績値	H31計画値		
				H25	H26	H27				
	安全性の向上	有蓋工事を行う無蓋防火水槽の数が残り56箇所です	箇所	64	62	59	56	47		

コスト 事業費+人件費	フルコスト(千円)	内訳	国庫補助金(千円)	県補助金(千円)	市債(千円)	使用料・手数料・その他(千円)	一般財源(千円)
	7,084				4,100		2,984

評価の視点	評価	判断基準		理由
	必要性	目的が市民ニーズに照らして妥当か		火災が発生した時に、適切かつ迅速な消火活動を確保する為、有効な消防水利を整備する必要があります。
		A	A: 適応している B: 一部適応していない C: 適応していない	
	有効性	目的や目標に照らして予想される効果が得られるか		防火水槽や消火栓を適切に維持管理することにより地域の安全性が向上します。また、消防水利の視認性が向上して違法駐車抑止につながります。
A		A: 期待したとおりの効果がある B: 期待したほどの効果が見られない C: 効果が少ない		
効率性	行政資源量(特にコスト)に対し合った効果があるか		適切に管理することにより、消防水利の長期維持が期待できます。	
	A	A: 効率的に効果が出ている B: 改善の余地がややある C: 効率的に効果が出ていない		
事業の問題・課題	計画通りに進んでいます。			
前年度の改善案	水利調査を充実させ、維持管理の向上を図ります。			
具体的な改善案	無蓋防火水槽のフェンス修理は、鳥獣対策用のフェンスを活用し、職員で設置してコスト削減を図ります。			

課長評価	現状のまま継続する(継続)	理由	有事の際の迅速な消火活動に最も重要であります。定期的に水利調査等、維持管理を行い地域の安全性の向上に努めていきます。
------	---------------	----	--